

本日は第2学期の終業式です。あの暑かった夏の日の始業式で、4か月後に2学期を振り返って「よく頑張った、自分」と言える学期にしてほしいと話したことを覚えていますか。間もなく年の瀬を迎えようとしている令和6年を振り返って、果たして自分をねぎらうことができるでしょうか。もし、「いまひとつだったかも」と思う人がいれば、2学期にいまひとつだったことの原因は何か、どうすればよかったのか、について、自分の行いを振り返り、その理由に気づいてほしいと思います。

ところで、2017年にはじまった「名言グランプリ」というものがあるのを知っていますか。世の中の変化に伴い、私たちは常に言葉の洪水にさらされていますが、「名言グランプリ」は人類を前に進める宝石のような言葉だけを探しだし、本来の言葉の力を見つめ直そうとする取組です。

今年のグランプリは、日本で初めて女性弁護士となった人物をモチーフにした朝ドラ『虎に翼』で、主人公の佐田寅子が放った「理想は掲げ続けなきゃただのゴミくずですよ」という言葉でした。理想を掲げ続けるには、その理想を実現するための「信念」が不可欠です。信念は、私たちが逆境に直面したときの支えとなり、理想を実現するためのエネルギー源となるからです。近年、就職を控えた大学生に『どういう企業に入りたいか』と尋ねると、1位は倒産しない企業、2位が給料の良い企業、そして3位は残業しない企業、という答えが並びます。この理由を聞いて、皆さんはどう感じますか。この答えには、自身の『何がしたい』『どうありたい』といった希望や理想、信念といったものはありません。私は、大変寂しいことだと感じました。

変化の激しい、予測不可能な現代社会に生きている私たちだからこそ、理想を掲げ続けながら紆余曲折を経て、よいことも悪いことも経験する中で、自分の頭で考え、行動し、そして振り返りながら軌道修正して、また理想を追い続ける。しんどいかもしれないけれど、そうしなければ私たちは方向を見失い、日々の雑務に埋もれてしまって生きる意味まで無くしてしまいかねません。

さあ、あと数日で、新年を迎えます。今一度しっかりと自分と向き合い、また新たな気持ちで、強い気持ちで、それぞれの目標、理想に向かって進んでほしいと願います。そして、生徒や教職員の皆さんにとっても、この野村高校にとっても、来る令和7年が素晴らしい1年になるために、この冬休みが事故なく、有意義なものとなることを心から期待して、式辞といたします。

令和6年12月20日 愛媛県立野村高等学校 校長 松井 由紀子